

3. 素データ・ファイルの作成

ここでは、素データ・ファイルの作成について解説します。

3.1 ファイル形式

素データ・ファイルはテキスト・ファイル（ASCII ファイル）で作成します。エクセルなどのスプレッドシートから変換すると、時として拡張子.dat が付くことがありますが、ウィンドウ上で操作するときには、拡張子.txt に書き換えておいた方が使いやすいでしょう。

3.2 データ入力形式

① 1行（レコードとも言う）80 桁（カラムとも言う）以内の固定書式で入力します。固定書式とは、決まったカラム（桁）に決まったデータが入力される形式を言います。

SPSS 自体は、80 桁を超えても対応できますが、作業上は、画面におさまりやすく、プリントアウトしても桁ずれが起こらないという点で、80 桁にとどめておいた方がよさそうです。また、データをケースごとに改行しない自由書式にも対応していますが、入力作業やデータの修正作業を考えると、固定書式のほうが安全だと思います。

② 1 ケース（たとえば一人分の調査票）が複数レコードにわたっても構いません。この場合、各レコードの 1 桁目にレコード番号（1, 2, 3）を入れておくと、編集の際に便利です。

③ 第 1 レコード、2 桁目以降には ID 番号を入れるのが普通です。

④ 量的変数も質的変数（カテゴリカル変数）も、すべて数字で入力しましょう。文字型形式の入力も可能ですが、ファイルの変換などで制約が生じる場合があるので避けた方がよいでしょう。

入力されたデータの例を図 3.1 に示しました。参考にしてください。

3.3 データ入力形式に適合的な調査票のアレンジ

3.1 のような素データ・ファイルを効率よく作成するためには、あらかじめ調査票にコーディング用のカラムを印刷しておき、カラム番号を付しておくとう便利です（図 3.2 参照）。回収された調査票の回答番号等を、コードとして調査票のカラムに転記し、つぎにそれを見ながらテキスト・ファイルに入力していけばよいのです。

図 3.2 調査票のアレンジ

右上に、レコード番号、地点、サンプル番号を記入するカラムを用意しておく。調査票右の□も、コーディング用のカラムである。

カラム数が 80 桁を超える場合、レコード番号 2, 3, ...を入力するカラムを用意しておく必要がある。